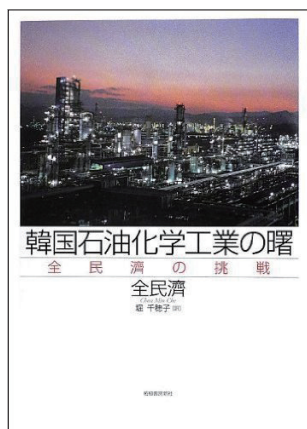


■若手に読んでもらいたい本

鯉沼秀臣のおすすめ

モノづくりハイテクベンチャー(株)コメット 創業者・取締役会長



分野：工学
書籍名：韓国石油化学工業の曙
著者：全民済、堀千恵子訳
出版社：拓植書房新社
出版年：2012年
価格：2,500円

高分子本のおすすめは①「高分子合成反応」(鶴田禎二著、日刊工業社刊)と②「鎖状分子の統計力学」(P. J. Flory 著、安部明廣訳、培風館)である。前者は、大学院時代の恩師：鶴田先生が初版を昭和34年に出版して以来20以上の版を重ね、B5判、200ページほどの本に高分子化学のエッセンスを凝縮し、海外でも出版されている。後者は、ポリマーの構造が回転異性体近似に基づいて行列式に表示され、物性まで統計力学的に解析できる手法に感服した。異分野から“はやりの高分子”に参入する若手研究者は、鶴田先生の名著①を勉強してから来い、と応用物理の“談話室：私のすすめる一冊”(61巻、p.1067 (1992))に書いた。昨年9月に95年の生涯を閉じた先生のご精神、伝統を継ぐ「高分子学会世界遺産」に認定できないだろうか？

さて、太平洋戦争直前の1941年10月末に生まれた筆者は、疎開先の所沢の防空壕から東京の上空が赤く染まっていた(多分1945.3.10東京大空襲)記憶のほか、焼跡闇市を空腹を抱

えて彷徨った思い出がある。60～70年前の日本で起こっていたことを今どきの若い人たちは想像もできないだろうが、こんな状況を一気に変え、日本の復興と経済成長をも

たらした鍵は二つある。第1は朝鮮戦争による特需、第2は石油によるエネルギー・原料革命である。今回のおすすめ本は、日韓併合時代に生まれ、朝鮮戦争を経て、韓国に石油化学工業を起こした筆者：全民済さんの自伝である。高分子ばかりでなく製造業、エネルギー産業の母体となった石油化学を韓国に生み出した苦難と努力は、今どきの若い人にはついていけないと思うが、歴史の真実を知りVisionとAmbitionを生む参考になれば幸いだ。

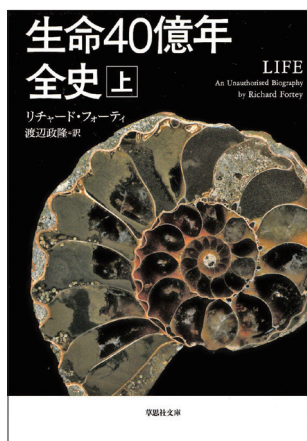
江戸時代の位で考えると、現在の日本は工商国家であろう。土農を他人任せにして豊かな社会と平和を維持していくには、それなりの知恵と努力が必要だ。



■私の役に立った本

望月慎一のおすすめ

北九州市立大学環境技術研究所 准教授



分野：生命科学
書籍名：生命40億年全史(上・下)
著者名：リチャード・フォーティ
(渡辺政隆訳)
出版社：草思社文庫
出版年：2013年
価格：上・下とも900円(税別)

生命がこれまで辿ってきた歴史を学び、過酷な生存競争を生き抜いた生物の特徴を知ることで、何か魅力的な新規材料のヒントにならないかと思ひこの本を手にとった。しかし、読み終えて感じたことは、40億年におよぶ生命の歴史を経てある現在が、無限にある選択肢のうちの一つに過ぎなく、この1本の道にしてもそれはさまざまな程度の幸運を経てできたものであるということだ。恐竜絶滅時も生き延びた動植物に繁栄をもたらしたのは絶妙のタイミングで遺伝子に変化が生じたおかげというわけではなく、その時点ですでに彼らは生存に必要な資質を備えていたのである。これもまた幸運である。このようなできごとが繰り返される中で生命は、氷河時代も生き抜き、海水準の変化や大気中の二酸化炭素濃度の変動にも耐え、勝ち抜いてきた。

生命の歴史と人生は少なからず似ていると感じる。私に限らずどの人生も幸運と呼

んでもいい偶然に左右されてきた面が多くあるはずだ。改めて語ることではないが、われわれの人生は遺伝子も決して無視できないものであるが、それ以外

にも運、環境等あらゆる要素が寄与して成り立っている。しかし、人は選択をするにあたって自分の意思でそれを選び、自身の幸運を掴み取ることもできる。人生は与えられることと、自らの積極的な努力で経験できることの両面を備えている。地球上の生命をめぐる壮大な歴史を通して、文字どおり生物(遺伝子)の物語、運不運の物語、地球と宇宙が生命に課す課題等、いろいろな物語を感じさせてくれる(学ばせてくれる)書である。

